⑶　減損の認識に至った経緯
平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、資産の滅失損壊がおこり、その使用目的に沿った機能を失い、将来の使用見込みが客観的に存在しなくなったため、減損を認識しました。
⑷　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
減損損失486,865円を認識しており、内訳は以下のとおりです。
ア　損益計算書に計上した金額　　―円
イ　損益外減損損失累計額　　486,865円
⑸　算定方法等の概要
当該資産の残存価額の全額を減損処理しております。

３．資産の種類、名称　有形固定資産　構築物
⑴　使用用途及び場所
岩沼分室の用　宮城県岩沼市
⑵　帳簿価額等の概要
4,991,620円
⑶　減損の認識に至った経緯
平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、資産の滅失損壊がおこり、その使用目的に沿った機能を失い、将来の使用見込みが客観的に存在しなくなったため、減損を認識しました。
⑷　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
減損損失4,991,620円を認識しており、内訳は以下のとおりです。
ア　損益計算書に計上した金額　　―円
イ　損益外減損損失累計額　　11,820円
ウ　資産見返負債の減少額　　4,979,800円
⑸　算定方法等の概要
当該資産の残存価額の全額を減損処理しております。

４．資産の種類、名称　有形固定資産　航空機
⑴　使用用途及び場所
実験の用　宮城県岩沼市
⑵　帳簿価額等の概要
2,036,003円
⑶　減損の認識に至った経緯
平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、資産の滅失損壊がおこり、その使用目的に沿った機能を失い、将来の使用見込みが客観的に存在しなくなったため、減損を認識しました。
⑷　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
減損損失2,036,003円を認識しており、内訳は以下のとおりです。
ア　損益計算書に計上した金額　　―円
イ　損益外減損損失累計額　　2,036,003円
⑸　算定方法等の概要
当該資産の残存価額の全額を減損処理しております。

５．資産の種類、名称　有形固定資産　車両運搬具
⑴　使用用途及び場所
実験の用　宮城県岩沼市
⑵　帳簿価額等の概要
319,148円
⑶　減損の認識に至った経緯
平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、資産の滅失損壊がおこり、その使用目的に沿った機能を失い、将来の使用見込みが客観的に存在しなくなったため、減損を認識しました。
⑷　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
減損損失319,148円を認識しており、内訳は以下のとおりです。
ア　損益計算書に計上した金額　　―円
イ　資産見返負債の減少額　　319,148円
⑸　算定方法等の概要
当該資産の残存価額の全額を減損処理しております。

６．資産の種類、名称　有形固定資産　工具器具備品
⑴　使用用途及び場所
実験の用　宮城県岩沼市
⑵　帳簿価額等の概要
15,223,907円
⑶　減損の認識に至った経緯
平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、資産の滅失損壊がおこり、その使用目的に沿った機能を失い、将来の使用見込みが客観的に存在しなくなったため、減損を認識しました。
⑷　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
減損損失15,223,907円を認識しおり、内訳は以下のとおりです。
ア　損益計算書に計上した金額　　―円
イ　資産見返負債の減少額　　15,223,907円
⑸　算定方法等の概要
当該資産の残存価額の全額を減損処理しております。

附　属　明　細　書

１．固定資産の取得、処分、減価償却費（「第87特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91資産除去債務に係る特定の除却費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

（単位：円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期減損損失		
	建物	41,717,151	6,995,205	9,932,532	38,779,824	13,139,522	3,241,072	―	―	25,640,302	
	構築物	15,850,537	―	―	15,850,537	10,667,717	857,447	4,979,800	4,979,800	203,020	注３